

兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.8



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2011 Autumn-Winter



勝雄経塚出土経筒(県指定文化財)

平成23年秋冬号

■特別展「みほとけの考古学—中世民衆と仏教信仰—」…2

◆ふるさと発掘展「発掘が語る丹波篠山—旧石器から篠山城まで—」…4

◆企画展「調査研究速報展 ひょうごの遺跡Vol. 4」…5

◆学芸員が選ぶ、私のイチオシ館藏品「銅鐸鑄型のミニチュア」…5

◆研究ノート「見えてきた、幻の(仮称)邑美駅家」…6

◆こどものための博物館情報「おおむかし紙芝居」「やよいごっこ」完成!…7

中世仏教信仰の世界に迫る

特別展 みほとけの考古学 —中世民衆と仏教信仰—

平成23年10月1日(土)～11月27日(日)

平安時代の終わり頃から戦国時代にかけて約四百年間続く‘中世’という時代は、飢饉・疫病・戦乱がうち続き、民衆は常に死と隣り合わせの日常を送っていました。人びとは日々の不安を仏に託し、仏法を通じて現世の平安を願い、来世の救済を祈ったのです。そうした中世人の想いが込められた仏教信仰にかかわる出土品や、県内の古刹に伝わる仏具・法具などから、当時の信仰の世界に迫ります。

◆未来に託された品々 —経塚の世界—

‘経塚’は末法思想の産物で、釈迦の教えである大切な経典を後の世まで伝えるために、法華経などの経巻を経筒に入れて、地中に埋納したものです。

滝の奥経塚(神戸市)では経筒の他に、金銅製独鈷杵とっこ、和鏡、青白磁・白磁ごうすの合子、鳳凰飾金具などが副納されており、平安時代末期の在地の富裕層による埋納品とみられます。

勝雄経塚(神戸市)では、備前焼かつおの外容器がいようきに小型の金銅製経筒(表紙写真)が納められただけで、副納品はありませんでしたが、経筒の中には法華経八巻が残っていました。経筒の銘文から、これは播磨の住人である良円が享禄3(1530)年に、六十六部廻国納経のために納めたものであることが判ります。資料の状態が良好な場合、埋納に関与した人の名前、年代、目的までが明らかになるのが、経塚の特長です。



滝の奥経塚の埋納品(神戸市教育委員会蔵 市指定文化財)



勝雄経塚の経筒と経巻(当館蔵 県指定文化財)

◆祈願とまじない —地鎮具・埋納品—

呪術や祈祷にともなって、密教法具などが地中に埋納されることがあります。妙楽寺(豊岡市)からは大型錫杖しゃくじょうの頭部、宝珠杵ほうじゅしよ、六器ろっき、柄香炉えこうろ、火舎かしやといった密教の修行に使われる仏具があわせて34点も出土しました。金銅の色あいがよく残っており、さながら密教寺院の本堂から修法壇をそのまま運んできたかのようです。



妙楽寺出土密教法具(豊岡市教育委員会蔵 県指定文化財)

◆とむらい —埋葬と供養—

墓の副葬品には、葬られた人の身分や財力が、もっともよく反映されます。多利・前田遺跡(丹波市)の木棺墓には、青白磁小壺・合子、白磁皿、和鏡、鉄銚、毛抜き、刀子が供えられていました。当時の領主層が愛用した身だしなみを整えるための小物がそろっています。



多利・前田遺跡 木棺墓の副葬品(当館蔵 県指定文化財)

◆中世寺院の展開 —信仰の諸相—

現在、古刹と呼ばれる由緒ある寺院も、この時代に大きな変革を経験します。寺を開創した高僧信仰や、西国三十三所観音巡礼の霊験が喧伝され、民衆による霊場めぐりが一般化します。書寫山圓教寺(姫路市)の性空上人坐像(重要文化財)は、そうした高僧信仰の様子を今に伝えます。

(学芸課 中川 渉)



性空上人坐像(圓教寺蔵 重要文化財)

- 観覧時間／9:30～17:00(入館は16:30まで)
 - 観覧料金／大人500円、大学生400円、
高校生250円、中学生以下は無料
 - 休館日／月曜日(祝日の場合は翌平日)
- ※会期中の日曜日13:30～学芸員による展示解説をおこないます。

《会期中のイベント》

【講演会】(講堂・各回13:30～15:00・定員120名・無料)

- 10月 1日(土)「浄土への祈り —経塚が語る永遠の世界—」
- 10月15日(土)「中世寺院と民衆」
- 10月22日(土)「書寫山圓教寺 性空上人と観音信仰」
- 11月12日(土)「播磨極楽寺瓦経 その数奇な運命」
- 11月19日(土)「兵庫県の経塚と経筒」

- 杉山 洋(奈良文化財研究所国際遺跡研究室長)
- 井原今朝男(国立歴史民俗博物館教授)
- 大樹 玄承(圓教寺執事長)
- 山本 博利(元姫路市立城郭研究室)
- 森内 秀造(当館調査第2課長)

【歴史ウォーク】「書寫山圓教寺の仏像と紅葉を訪ねて」

- 11月16日(水) 13:00～15:00 有料、現地集合・解散、定員30名
- 要申込(10月30日までに申し込んでください。定員に達し次第受付終了とさせていただきます。)

【体験イベント】(各回13:30～15:00・無料)

- 10月10日(月・祝)「ペーパークラフト 金ぴかの経筒を作ろう」
対象／小学校4年生以上(定員20名)、要申込(定員に達し次第受付終了とさせていただきます。)
- 11月 3日(木・祝)「ペーパークラフト 展覧会オリジナルモビール作り」
対象／どなたでも(定員30名)、当日受付

【館内集印クイズラリー】

- 10月16日(日)・23日(日)・11月20日(日)・27日(日) 13:30～15:00 要観覧料

●申込・お問い合わせ

県立考古博物館 学芸課 ☎079-437-5562まで

ふるさと発掘展

発掘が語る丹波篠山

—旧石器から篠山城まで—

平成23年10月8日(土)~12月4日(日)

会場：篠山市立歴史美術館

板井・寺ヶ谷遺跡は、旧石器時代を代表する遺跡です。2万9千年前に鹿児島で起こった火山の大噴火に伴う火山灰が、遠く丹波篠山にも降下しました。火山灰を挟む上下の地層から3千点に及ぶ石器が発見され、石器の製作技法や使用石材、組成の違いが明らかになりました。

桂ヶ谷遺跡や上板井遺跡の出土品からは、米作りと金属を使用する弥生時代の文化を感じ取ることができます。また、内場山墳丘墓の豪華な副葬品は丹波王の出現を予言し、続く古墳時代へと誘います。

そして、兵庫県では二番目の規模と端正な墳形をもつ、雲部車塚古墳の瀟洒な副葬品をレプリカで紹介し、沢の浦2号墳の銀象嵌大刀、よせわ1号墳の三角縁画文帯神獸鏡、山田2号墳の単鳳環頭大刀柄頭などの優品から、多様な古墳のあり方に迫ります。

古代には、山陰道の入口にあたる要衝の地であることから、交通に関連した遺跡が衆目を集めます。東浜谷遺跡の「郡」刻印土器や西浜谷下小西の坪遺跡の「永丙」墨書土器からは、古代官道沿いに配された「多紀郡衙」や「長柄駅」の存在がうかがえるのです。

『丹波志』にも登場する酒井氏縁の初田館跡からは、中世の土豪層の生活の一端を垣間見ることができる多量の出土品が発見されました。また、三本峠北窯跡は丹波焼の起源を示すもので、その技術は常滑焼や渥美焼の系譜を引くことが明らかになりました。最後を飾るのは、王地山陶器所跡と篠山城の出土品です。様々な陶磁器から往事の隆盛が偲ばれることでしょう。

この秋、篠山市立歴史美術館に足を運んで、出土品たちが語る歴史の営みに耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

(学芸課長 種定淳介)

多紀連山などの緑豊かな山々に囲まれた丹波篠山は、篠山川が西流する篠山盆地を中心として、3万年にわたる悠久の歴史を誇っています。

今回のふるさと発掘展では、兵庫県立考古博物館と篠山市教育委員会との共催により、舞鶴若狭自動車道の建設に伴う発掘調査で発見した数々の考古資料を中心として列品し、旧石器時代から江戸時代までの人々の生活を振り返ってみます。



丹波最大の古墳—雲部車塚古墳

◆展覧会情報◆

会場／篠山市立歴史美術館
篠山市呉服町53 TEL079-552-0601
開館時間／9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日／月曜日(祝祭日の場合は翌日)
料金／大人500円、高大生400円、小中生300円

【シンポジウム】

「丹波の王墓、雲部車塚古墳の謎にせまる」

日時／10月30日(日) 13:00~16:00

会場／篠山市民センター

定員／200名(先着)

受講料／無料

講師／石野博信(兵庫県立考古博物館館長)

池田正男(郷土史研究家)

阪口英毅(京都大学助教)

中村 弘(兵庫県立考古博物館学芸員)

【公開講座】(各回13:30~15:00)

会場／篠山市立四季の森生涯学習センター

定員／100名(先着)

受講料／無料

「弥生時代の篠山盆地」

日時／10月9日(日)

講師／多賀茂治(兵庫県立考古博物館学芸員)

「丹波焼窯跡の発掘」

日時／11月6日(日)

講師／河野克人(篠山市立中央公民館館長補佐)

【こども考古学教室】

「紙で古墳時代のかぶとを作ろう」

日時／11月13日(日) 13:00~15:00

会場／篠山市立歴史美術館

定員／20名(先着)

参加費／無料(入館料が必要)

【遺跡ライド&ウォーク】

「篠山の古墳をめぐる」

日時／11月23日(祝・水) 10:00~16:30

会場／雲部車塚古墳ほか

定員／25名(要申込み)

参加費／100円(保険代)

※11月6日までに篠山市教育委員会社会教育・文化財課
(TEL079-552-5792)までお申し込みください。

企画展予告 遺跡から直送！とれたて最新情報をおとどける

調査研究速報展 ひょうごの遺跡 vol.4

平成24年1月28日(土)～4月8日(日)

当館の最新の調査研究成果をごらんいただく企画展です。今回展示するのは平成22年度に刊行した26冊の発掘調査報告書に収録された主な遺跡と、平成23年度に発掘調査されたばかりの遺跡です。その中から見どころをご紹介します。

◆中世須恵器生産の始まりを解明

——神戸市神出窯跡群^{かんで}

中世を代表する須恵器産地である神出窯跡群の成立が平安時代まで遡ることが明らかに。

このほか最新の発掘調査成果も速報展示します。どんな新発見が展示されるのか、楽しみにしてください。

(学芸課 藤田 淳)

◆南北朝時代の戦いを伝える城郭

——三木市吉田住吉山遺跡群^{よしだすみよしやま}

14世紀中頃に築かれた砦から出土した鉄鎌や小札、甲冑の飾金具など。赤松円心も活躍した南北朝の争乱の様子を伝えてくれます。

◆明治時代の機関車転車台を発見

——姫路市豆腐町遺跡^{とうふまち}

姫路駅の初代機関車転車台は鉄道交通の発展を伝える近代化遺産。刻印のある煉瓦^{れんが}は鉄道ファンには必見。



神出窯跡群の須恵器

学芸員が選ぶ、私のイチオン館蔵品

銅鐸^{どうたく}鑄型のミニチュア^い 三田市平方遺跡^{へいほう}

平方遺跡は三田盆地を見下ろす標高210mの丘陵の上にある弥生時代中期後半(約2000年前)の集落遺跡です。

この遺跡でみつかった小銅鐸鑄型は、全国でも他に例のないものです。鑄型は粘土を焼いて作っており、縦9.8cm、横6.2cmほどの小さなものです。内側に刻まれた文様は、扁平鈕式銅鐸^{へんぺいちゅうしきどうたく}の文様を、ややたどたどしいタッチで模倣しています。

この鑄型で実際に小銅鐸を製作できるかどうかわかりません。また、三角形を連続させた鋸歯文^{きょしもん}の向きが銅鐸と逆向きであることなど、銅鐸の実物をよく理解していない人が作ったようです。しかし、扁平鈕式銅鐸そのものが作られた時期を推定する手がかりとなる重要なものです。

この小銅鐸鑄型一対と中子^{なかご}(鑄造の際の内型)の破片やふいごの破片、片岩製の舌^{ぜつ}(銅鐸の中につけてならすもの)、一緒に出土した土器は兵庫県指定文化財に指定されています。

(学芸課 菱田淳子)



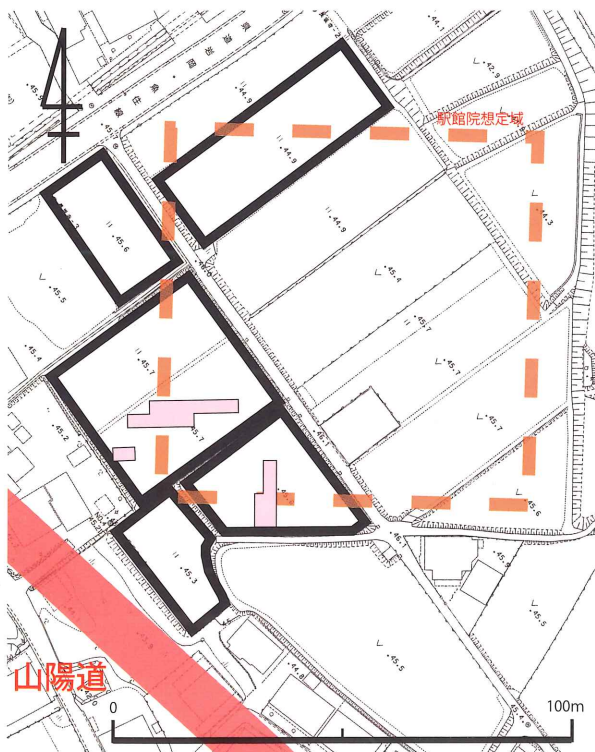
研究ノート

古代山陽道の駅家を調べる

見えてきた、8丁の^(仮称)邑美駅家 ―明石市長坂寺遺跡の発掘―

奈良時代には、古代の幹線道路「山陽道」が、平城京と大宰府の間を結んでいました。兵庫県内では摂津から播磨がその経路にあたっていて、今でも航空写真を見れば、かつての道路の痕跡をとぎれとぎれにたどることができます。この道路に沿って、都からの使者が馬を乗り換えるための「駅家」という施設が用意されていました。今でいうサービスエリアのようなものですが、当時は役人専用です。

明石から加古川にかけての印南野台地では、山陽道が約15kmもの直線道路で通っていました。その区間には駅家が東西に2箇所設けられていました。西側の「賀古駅家」は、加古川市古大内遺跡にあったことがわかっています。一方、東側の駅家は明石市長坂寺遺跡にあったと目されていますが、文献に記録が残っていないために駅家の名前は伝わっていません。周辺の古い地名から「邑美駅家(おうみのうまや)」と仮に名付けられてはいるものの、これまであまり調査されてこなかったもので、十分に内容はわかっておらず、幻の駅家とも言われてきました。



駅家の推定範囲と調査場所(ピンク色が発掘調査箇所)



築地塀の跡(2本の溝の間)



出土した軒瓦

そこで当館では平成19年度から長坂寺遺跡の調査に着手し、20・21年度に行った遺跡探査によって、方形に区画された駅館院^{やつかんいん}の存在をうかがわせる反応を得ました。そのデータをもとに、22年度の冬に、同遺跡では初の発掘調査を実施しました。

調査の結果、想定していた方形区画の南辺と西辺で、築地塀^{つじべい}にともなうと考えられる溝が見つかり、軒瓦を含む多数の瓦片が出土しました。この成果は、過去に調査された他の駅家の事例とも符合しており、駅家の実在を強く暗示するものでした。

さらに、その遺構よりも古い段階の大型掘立柱建物が2棟発見されたことにより、駅家が瓦葺きに改修される以前の状況も、地下に残されている可能性が出てきました。

今年度も調査を継続する予定ですので、調査成果にご期待ください。

(学芸課 中川 渉)

こどものための博物館情報

「おおむかし紙芝居」「やよいごっこ」完成!

このたび、幼児のための古代体験ツールが完成しました。その名も「おおむかし紙芝居」「やよいごっこ」。博物館との出会いが楽しいものとなるように願っています。

「おおむかし紙芝居」

『おなかいっぱい』(14枚組)

ハナちゃんは元気であわてんぼうの女の子。ドングリをとり、イノシシやシカ狩りをしながら山で暮らしています。あるとき、ドングリを求めて山の奥に入り込み、道に迷ってしまいました。そこで、ハナちゃんは見つけない男の子と出会います。その男の子が手にしていたものは…

お米づくりが広まり、生活が大きくかわる様子を描いています。



「え？おこめって なあに？」

『海のお米』(9枚組)

弥生時代の男の子、コタローはちょっとなまけもの。お父さんに誘われて海へお米を取りに行くことになりました。海にお米はないはずだけど…

海でとれるお米、イイダコ(飯蛸)とコタローのものがたりです。博物館のある大中遺跡をはじめとして、瀬戸内海沿いの遺跡からはたくさんのタコ壺が出土します。大昔から現代まで続くタコ漁と、大昔の男の子の成長を描いています。



いっしょうけんめいに、ふねをこきました

「やよいごっこ」

弥生時代の暮らしをままごと遊びにしました。「おおむかし紙芝居」と関連性をもたせ、山のくらしと海のくらしの2セットを用意しました。ボランティアさんが作ったぬいぐるみも好評です。演じる子どもたち全員が大昔の主人公です。



「紙芝居」、「やよいごっこ」は、博物館で実施しています。詳しくは博物館まで。また、団体への貸出もできますので、お気軽にご相談ください。

(学習支援課 中村 弘)

「おおむかし紙芝居」情報

毎月第2日曜日に紙芝居を上演しています。
参加者には、もれなく絵本をプレゼント。

※絵本がなくなり次第、終了します。

※これらは文化庁の平成21年度美術館・博物館活動基盤整備事業、および平成22年度美術館・歴史博物館活動基盤整備事業の成果です。

展覧会	月	講演会	解説・ツアー	イベント	体験講座
特別展「みほとけの考古学」 10月1日(土)～11月27日(日) 10月8日(土)～12月4日(日) ふるさと発掘展「発掘が語る丹波篠山」 (会場 篠山市立歴史美術館)	10月	1日(土) 特別展講演会 「浄土への祈り-終極が語る永遠の世界」 杉山洋(奈良文化財研究所)	2日(日) 特別展 展示解説		2日(日) 特強力/ワ-子持ち勾玉づくり 7日(金) 古代組みひも入門 9日(日) 大中遺跡でどんぐりひろい 10日(月) 金ピカの経筒を作る
		15日(土) 特別展講演会 「中世寺院と民衆」 井原今朝男(国立歴史民俗博物館)	8日(土) バックヤード見学ツアー 9日(日) 特別展 展示解説		
		22日(土) 特別展講演会 「書寫山園教寺 性空上人と観音信仰」 大樹玄承(園教寺執事長)	16日(日) 特別展 展示解説	16日(日) 館内集印クイズラリー	
			23日(日) 特別展 展示解説	23日(日) 館内集印クイズラリー	22日(土) 楽しいどんぐりであそび 23日(日) 赤米をつくろう (稲刈りをして、食べてみよう)
			30日(日) 特別展 展示解説		
			5日(土) 実演よみがえる古代の出土品 6日(日) 特別展 展示解説	5日(土) 第4回 考古古代体験・秋祭り	3日(木) 展覧会オリジナル モビール作り
		12日(土) 特別展講演会 「播磨極楽寺瓦経 その数奇な運命」 山本博利(元姫路市立城郭研究室)	13日(日) 特別展 展示解説 16日(水) 歴史ウォーク —書寫山園教寺の仏像と紅葉を訪ねて—		
		19日(土) 特別展講演会 「兵庫県の経筒と経筒」 森内秀造(当館調査課長)	20日(日) 特別展 展示解説 27日(日) 遺跡ウォーク —石の宝殿と探石遺跡をたずねて— 特別展 展示解説	20日(日) 館内集印クイズラリー 27日(日) 館内集印クイズラリー	20日(日) 古代のかごづくり
		10日(土) 兵庫考古学研究最前線7 「たつの市権現山51号墳と考古学者 近藤義郎」 山本誠(学芸員)	4日(日) 学芸課長が語る 「考古学のツボ」 10日(土) バックヤード見学ツアー		9日(金) 奥深〜い組みひもの世界へ
企画展「ひょうこの遺跡voice」 1月28日(土)～4月8日(日)	12月		12月12日(月)～12月16日(金) メンテナンス休館		
				23日(金) 考古博であそぼう・クリスマス 25日(日)	25日(日) 古代米のワラでしめ縄づくり
		14日(土) 兵庫考古学研究最前線8 「自然災害と考古学Ⅱ—地震編—」 種定淳介(学芸課長)	14日(土) バックヤード見学ツアー 15日(日) 学芸課長が語る 「考古学のツボ」	3日(火) 新春もちつき こころはカルタ大会	2日(月) 考古博たこあげコンテスト
		28日(土) 兵庫考古学研究最前線9 「消えた中世の大窯業地—神出窯のルーツを探る—」 森内秀造(調査第2課長)		15日(日) とんど焼き—小正月の火祭り—	
		11日(土) 兵庫考古学研究最前線10 「南北朝時代の城と戦い—丹生山の攻めと吉田住吉山遺跡—」 池田征弘(学芸員)	11日(土) バックヤード見学ツアー	5日(日) 一節分— 鬼瓦のお面で鬼退治	18日(土) 連続講座(特殊器づくり①) 19日(日) 連続講座(特殊器づくり②)
		25日(土) 兵庫考古学研究最前線11 「地形環境と土地利用の関係を考える—市之郷遺跡の調査から—」 山田清朝(学芸員)			
		10日(土) 兵庫考古学研究最前線12 「祭祀遺跡研究百年史」 大平茂(調査第1課長)	10日(土) バックヤード見学ツアー 17日(日) 実演よみがえる古代の出土品 18日(日)	3日(土) ひな祭り—ハニワのおひな様を作る 17日(土) 考古博であそぼう 18日(日)	
		24日(土) 平成23年度発掘調査速報会		25日(日) 「新ひょうご風土記」カルタ大会	

■「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:00～15:00

■休館日:月曜日(祝日の場合は翌平日)※12月12日(月)～12月16日(金)、12月31日(土)、1月1日(日)、1月4日(水)は休館。1月2日(月)は開館。

■体験講座は事前予約が必要な場合があります。TEL079-437-5564(学習支援課)

兵庫県立考古博物館NEWS vol.8 2011 Autumn-Winter

発行年月日 平成23年8月31日

編集・発行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
<http://www.hyogo-koukohaku.jp>

- 電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場/町堂大遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください(普通車1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館

